

令和5年度「障害児・者のスポーツライフ調査」の結果について (概要)

令和6年3月
スポーツ庁

1. 障害者の運動・スポーツの実施率について

- 20歳以上の運動・スポーツ（学校の授業等を除く）の実施率は、週1回以上では32.5%（前年度から1.6ポイント増）、年1回以上では57.1%（前年度から3.0ポイント増）、週3回以上では18.1%（前年度から1.2ポイント増）と増加していた。
- 7～19歳の運動・スポーツの実施率は、週1回以上では34.4%（前年度から0.9ポイント減）、年1回以上では64.0%（前年度と同数）、とほぼ横ばいで大きな変化はなく、週3回以上では19.1%（前年度から3.0ポイント増）と増加していた。
- 障害種別の週1回以上の運動・スポーツ実施率は、20歳以上では、全体の実施率の傾向と乖離なく、どの障害種も、前年度と比べて、増加またはほぼ横ばいであった
- 過去1年間に運動・スポーツを実施した人が行った種目は、前年度と同様に全体で「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」の割合が高い。20歳以上では次いで「階段昇降」、7～19歳では「なわとび」「水泳」の割合が高かった。
- 障害のない人と運動・スポーツを経験したことがある割合は全体の17.1%であった。一緒に運動・スポーツを行った障害のない人については、「家族(45.8%)」「友人(44.2%)」の割合が高かった。

2. 運動・スポーツに対する関心、スポーツ等を行うにあたっての障壁

- 運動・スポーツを実施する上での障壁について、「障壁はなく、十分に活動できている」と回答した者の割合は17.4%で、前年度から8.4ポイント増加した。
- 運動・スポーツを実施する上での障壁は、「体力がない(31.9%)」、「体調に不安がある(23.8%)」、「金銭的な余裕がない(16.5%)」の順となっていた。
- 現在の運動・スポーツへの取組について、非実施者は、「特に運動・スポーツに関心はない(72.0%)」の割合が最も高く、次いで「運動・スポーツを行いたいと思うができない(26.0%)」であった。経年で比較すると、非実施者の「特に運動・スポーツに関心はない」割合が令和4年度の78.1%から72.0%と6.1ポイント減少しており、無関心層の減少がみられた。

3. 運動・スポーツを行うきっかけ、やってよかったこととやらない理由、スポーツがもたらすもの

- 運動・スポーツを行うきっかけは、「特に理由はない・なんとなく(42.0%)」を除くと、「医師に奨められた(24.9%)」「家族に奨められた(21.4%)」の順に割合が高く

なっていた。

- 運動・スポーツ実施者が運動・スポーツをやってよかったことの上位は、「ストレスが解消される」(34.7%)、「体力・身体的機能が向上した」(26.1%)、「外出が増えた」(24.4%)、「体を動かすこと自体が楽しい」(23.0%)、「行動範囲が拡大した」(20.1%)と、前年度から大きな変動はみられなかった。
- 運動・スポーツ非実施者が運動・スポーツをしない理由は、「特に理由はない」(24.0%)を除き、「運動・スポーツが嫌いである」(33.4%)、「運動・スポーツに興味が無い」(23.0%)、「疲れるから」(21.6%)の順であった。
- 運動・スポーツが何をもたらすと考えるかについては、「健康・体力の保持増進」(58.7%)が最も高く、「精神的な充足感」(33.8%)、「人と人との交流」(24.3%)、「リラックス、癒し、爽快感」(21.3%)と、生活の豊かさにつながる回答が上位を占めた。

4. 今後の対応について

スポーツ庁では、第3期スポーツ基本計画も踏まえ、以下の取組を実施していきます。

- ・ 障害のある人となない人が共にスポーツをするインクルーシブなスポーツ環境の整備
- ・ 障害者特有のスポーツの実施に係る障壁の解消とスポーツ実施体制の課題の解消
- ・ 特別支援学校等の運動部活動の地域連携・地域移行

(以上)